

HP:<https://rakuno.org/>

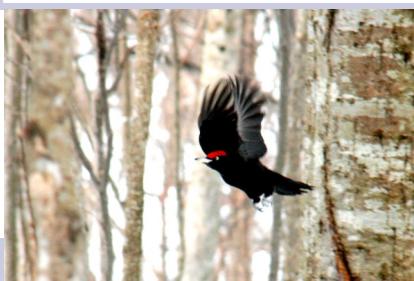
同窓会通信 -野幌だより-

酪農学園同窓会ニュースレター

高校・短大・大学 同窓生関連の最近の話題

トピック (スケジュール)

- 11月01日 ワンダーフォーゲル部OB会
- 11月01日 ソフトテニス部総会&65周年
- 11月06日 短大Ⅱコース5期生同期会
- 11月08日 道南地区会
- 11月09日 獣医学科4期生同期会
- 11月14日 短大Ⅱコース14期同期会
- 11月15日 東北地区福島県支部総会
- 11月15日 中国地区鳥取県支部総会
- 11月18日 短大Ⅱコース10期生同期会
- 11月20日 貴農同志会懇話会
- 11月22/23 大学推薦入試日
- 11月23日 佐藤元昭先生を偲ぶ会
- 11月25日 短大Ⅱコース13期生同期会
- 11月26日 機農高校酪経5期生同期会
- 12月13日 機農高校24期生同期会
- 12月25日 学園クリスマス礼拝祝会
- 01月07日 緑風会総会交流会
- 01月17/18 大学入学共通テスト
- 02月04/05 大学1期学力入学試験
- 02月17日 高校一般入学試験
- 02月28日 高校卒業式
- 03月03日 大学2期学力入学試験
- 03月07日 中部地区愛知県支部総会
- 03月19日 大学校位記授与式



目次 :

北海道第三地区（道南）地区会

1

獣医学科10期同期会報告

2

農業経済学科42期20周年同期会

2

獣医学科11期同期会報告

2

獣医学科26期30周年同期会

3

ワンダーフォーゲル部OBOG会

3

山岳部遠征報告会他

4

編集後記

4

北海道第三地区（道南）地区会報告



2025年11月8日11時30分よりハ雲駅近くの「まるみ食堂」にて開催致しました。参加者は11名と例年と以前と比べ少くなってしましましたが、総会では事業報告、事業計画の承認と役員全員の留任が決まりました。

その後開催の講演会では岩野学長より「日本の大学の現状」の報告と中出副会長より「大学の近況と黒澤西蔵の教えと実践から学ぶ」の演題を頂きました。

講演内容は、岩野学長からは少子化の中で多くの大学が定員割れしている状況と今後更に進む少子化の中で高校生に選ばれる大学になる為に「酪農学園」の名称についても検討されている事等を中出副会長からは「酪農学園」起源から現状について講演がありました。講演後、昼食を取りながら例年は各自の近況報告を行うところですが、今回は講演内容の質疑意見交換に多くの時間を取りました、大学教育の無償化を求める意見や酪農現場の過酷さ等の話題で盛り上がり予定時刻を過ぎ、集合写真を撮る前に用務のため帰られる方がチラホラ現れ、残念ながら意見交換を打ち切り集合写真を撮影し解散いたしました。

(文責 事務局長 萩本 正)

酪農学園同窓会の現況(卒業生数)2025.04.01

2024年度 累計卒業生数

大学院 計	1, 778名
大学 計	34, 987名
短大 計	9, 487名
高校 計	22, 223名
合計 計	68, 475名
酪農義塾 計	303名
酪農学校 計	*91, 517名
総合計	160, 295名

地区支部の設置状況()は未設置

北海道1区：石狩	3支部(1)(江別)
北海道2区：道央	6支部(2)(空知1)(胆振2)
北海道3区：道南	5支部(2)(後志1)(後志2)
北海道4区：道北	6支部(1)(留萌1)
北海道5区：道東	6支部(0) 26支部(6)
東北地区：	6支部(0)
関東甲信越地区：	10支部(0)
中部地区：	7支部(0)
近畿地区：	6支部(0)
中国地区：	5支部(0)
四国地区：	4支部(0)
九州地区：	8支部(0) 46支部(0)

同窓会開催報告

獣医学科第10期生同期会報告



令和7年10月22日（水）～令和7年10月23日（木）に三重県志摩市磯部町の矢883-12いかだ荘山上において令和7年度酪農学園大学獣医学科10期生同窓会を開催しました。

会は、同期生で逝去された方々の黙祷に始まり、逝去会員のメモリアルムービー、会員の近況報告、会員の写真ムービーを映写しつつ懇親会を開催しました。

翌日は、旅館からバスで志摩から伊勢に向かい、パールロードの展望台と伊勢志摩スカイラインの展望台を観望した後、おかげ横丁の老舗「すし久」で手こね寿司を食べてから皆で伊勢神宮内宮を参拝し神楽殿においてお祓いを受け神宮散策をして解散となりました。次には北海道で開催ということになりました。（幹事：小林登 代筆（郵便）：伊丹貴晴（同窓会事務局次長））

農業経済学科第42期生20周年同期会報告



去る7月5日（土）午後11時から母校酪農学園のホームカミングデーに参加後、夕刻に札幌市内にある「ライフォート札幌」から居酒屋に会場を移して標記の記念同期会が開催された。

出席者は7名。卒業後20年経過しており、参加者それぞれ当時の面影は残しつつも壮年の働きざかりになっていた。青春時代にタイムスリップして当時の懐かしい思い出話に花を咲かせ、和気藹々とした歓談が行われた。各自の近況報告等を行いながら次回の再会を誓い散会となった。

獣医学科第11期生同期会報告



「駿河湾から眺める靈峰富士山 龍泉寺と伊豆ジオ体感・飛んで静岡 報告

2025年 10月28日～29日

私達11期生は卒業10周年同期会を1990年に開催し、今回で16回目となります。生きているうちに会おうという事で2016年からは一年に一回のペースになり、今まで日本中を旅してきました。コロナ禍で3年間お休みましたが、一昨年は「福井巡礼の旅」と称し、永平寺、御誕生寺、越前一乗谷そして福井恐竜博物館を中心に巡りました。昨年は山形で「いも煮会」、舟形町で出土し国宝に指定された「縄文の女神」国宝土偶見学、信仰の山、出羽三山の一つ湯殿山を巡りました。

今回は、前回総会での決議どおり、靈峰富士を拝み、同期生である吉野老師の住まい龍泉寺を訪ね、伊豆ジオ体感・飛んで静岡となりました。

参加者は19名（同期15名）、駿河湾フェリーの欠航のため、前夜祭は清水駅から、当日参加は静岡駅からのバススタートとなりました。清水駅をマイクロバスにて出発、静岡駅経由で日本平から久能山東照宮（階段が足腰に堪えましたが）へ、5日前に初冠雪をみた富士山と駿河湾を眺めることができました。続いて龍泉寺に移動、同期生である住職吉野真常老師による法要（物故者同期7名、恩師16名）・法話後に、総会を開催しました。来年は「エンジンは止めるな！大人の修学旅行」と決議しました。

伊豆大仁ホテル宿泊、懇親会では、参加各自の現状報告に、皆が何度もうなずく光景が印象的でした。最後に、昨年より念願の酪農讚歌を熱唱（？）いたしました。

二日目は、午前中に昭和の森会館、伊豆近代美術館にて文豪たちの足跡に思いをはせ、淨蓮の滝（ここでも、階段が足腰に堪えました）で昼食。最後は、飛んで静岡の名の通り、三島スカイウォークにて、日本一長い歩行者専用つり橋を渡り、古希の勇者8名がジップラインに挑戦し文字通り、静岡の空を飛びました。

一人のけが人もなく、全員元気に三島駅に到着、まっすぐに帰る者、寄り道していく者、今回の旅をそれぞれ膨らませながら、来年の名古屋での再会を約束し別れました。 また会う日まで！お元気で！（幹事 外岡南海子、幹事補佐 湯本哲夫）

同窓会開催報告

獣医学科第26期生30周年同期会報告



去10月11日に酪農学園大学獣医学科第26期卒後30周年の同期会を開催いたしました。西村謙一獣医師（恵庭：開業）をリーダーとした5名が幹事役として、約1年半の準備期間を経て開催しました。同期生50名、恩師の先生方3名、また同期生のご家族2名も加え総勢55名で盛大なものとなりました。26期の同期会は10年ぶり3度目の開催となりましたが、全国各地、遠くは鹿児島からの参加もあり、改めて26期の絆の深さを感じました。

開会後まず最初に、悲しくも卒業後逝去した同期生への黙祷のから会が始まりました。その後参加していただきました山下先生、中尾先生、加藤先生よりご挨拶をいただき、今の大学構内の様子を撮影したスライドと青春時代を過ごした1990年台のヒット曲をバックに皆さんとの久々の再会を楽しみました。

最後はみんなで円陣を組み、「つけ髭」を付けて酪農讃歌の大合唱で締めくくりました。楽しい時間はその後の二次会、三次会と続き、次回は5年後の35周年同期会を九州で、名物の水炊きを囲みながら開催することを約束し、名残惜しくもそれぞれの日常へと戻っていきました。



去る11月9日(日)午後6時から岩手県山王山温泉「瑞泉郷」を会場に4期同期会を同期生11名(1名欠席)、同伴者等7名の18名で開催した。

2時にホテルロビーで受付を開始し、6時10分前に宴会場に集合し写真撮影のち、宴会となった。

最初に永眠者への黙祷、幹事からの開会挨拶、乾杯と続き、その後に参加者全員から近況報告をいただき、和やかな歓談が行われた。最後に次回の開催地（幹事）の選考が行われ、閉会となった。その後、二次会会場へと移動しさらに三次会と続いた。翌日はホテルロビーに集合し、記念撮影ののち、中尊寺見学や猿美満舟下り等を体験し、一関駅西口で解散となった。

ワンダーフォーゲル部OB/OG会報告



11月1日 カルルス温泉鈴木旅館にて現役部員15名を含む32名の参加で総会～懇親会が行われました。

2014年11月に創部50周年を期して正式にワンダーフォーゲル部OB.OG会が設立され、今回第5回目の開催となります。

総会では物故者への黙祷に引き続き会長挨拶の後決算報告、予算案、役員改選が審議され今後の会員への連絡方法について郵送費の値上がりや手間を考慮しEメールを基本とすることで合意、Eメールアドレス未登録者に登録を促す事とした。

その後現役部員による活動報告が主将より行われ、一年間の活動を共有した。

懇親会では高澤顧問より乾杯のご発声をいただき、歓談する中、恒例の近況報告では個性あふれる報告に楽しい宴会となる。

全員参加の2次会では現役部員によるワングルビンゴで大盛り上がり、今回多数の現役部員に参加いただき年配のOBは大いに活力をもらい、最後に肩を組んで部歌を歌う頃には現役部員とも一体感が生まれ、3次会は3時に幕を閉じてとの事で盛会に終えることが出来ました。会員情報の管理や出欠連絡、開催場所の選定と調整など事務局のハローポーター(山岳ガイド)森下君には心より感謝します。

翌朝は元気に朝食をいただき、玄関前で集合写真を撮り2年後の再会を誓い無事解散となりました。

(文責 OB会長 作田昌彦)



〒069-8501

北海道江別市文京台緑町582

酪農学園同窓会

電話 011(386)1196

FAX 011(386)5987

Email: rg-dosok@rakuno.ac.jp.



酪農学園同窓会

酪農学園100周年記念寄付事業

創立100周年記念寄付事業 2024ホームカミングデー チャリティTシャツ募金

2,000円で購入いただけます。Tシャツの一部が募金になります。

Tシャツ原価を引いた1,000円程度が

学校法人酪農学園 創立100周年事業への寄付になります。



募集要項(7月よりホームページにて全文公開)

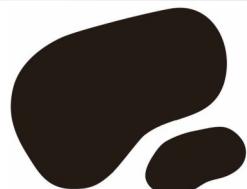
1. 募金の名称 創立100周年記念事業募金
2. 募金の目的・使途 施設の大規模改修・再編
 - (1) 大学: 研究・実習施設の整備・新設、事務管理棟の集約化など
 - (2) 高校: 基本方針として、現有施設を活用し続けるための計画的改修など
 - (3) 附属施設: 旧精農寮保存のための改修、馬術部施設の移転・新設、研修館周りのインフラ整備など

問合せ先: 事務局財務課 011-388-4148 (寄付担当)



酪農学園大学
ブランドマークとキャッチフレーズ

生きるを学ぶ。
学びが生きる。



「1986 チャムラン・1992 ラカポシ遠征講演会」&交流会開催報告



酪農学園大学山岳部OB会主催

現役も数名交えた事務局では、5月 21 日に開いたウェブ会議で『新谷 OB の講演会を開き、集まった現役と OB の交流会が開けないか?』と、いうアイディアが出ました。その後、講演会の実現に向け6、8、10 月と役員会を重ね、10 月 18 日(土)に母校の酪農大学生ホールにて、盛大に開催の運びとなりました。

役員会では、「新谷 OB の貴重なお話を、多くの方に聴いて頂こう。」との企画で、PRポスターを作成し、大学内や北大山岳館内、秀岳荘、石井スポーツ、パドルクラブ、好日山荘等のアウトドアショップにポスターを張ってもらい、広く参加を呼びかけました。

結果的に、一般的の参加者は数名にとどまりましたが、全国からご参加の OB が総勢で 26 名、現役も 25 名が集まり、盛会となりました。

講演内容

新谷 OB の活動は、登山にとどまらず、知床のシーカヤックガイド、ニセコ雪崩調査所の運営など、多岐にわたります。しかし、今回は演題のとおり、これまで取り組んでこられた登山活動を中心にお話を頂きました。

高校生の頃に一人で冬山に行き、山中で堀井 OB、吉田 OB と出会った思い出話から講演が始まりました。そして、山岳部時代、佐々木 OB と二人で敢行した『厳冬期の大雪山全山縦走』や、二つのヒマラヤ遠征のお話を、スライドを交えながらして頂きました。

OB&現役交流会

令和7年 10 月 18 日(土)18:30 から新さっぽろアークシティホテルを会場に 35 名が参加して行われた。司会進行は土屋 勝(山岳部 10 期)。開会宣言に続き、黙とうが行われた。物故者:西川 求(1期)、チャムラン遠征隊メンバー 中村 孝(17 期)、櫛見 理(22 期)、これまでに亡くなった山岳部 OB 全員

太田 真 前会長(1期)のコメント(OB4名を代表して記載)

今回の講演会、OBと現役の交流会などは山岳部が創立されて初めての開催であり、この開催にご尽力頂いた山岳部OB会会長吉田様はじめ役員の皆様、現役のリーダーの諸君、大学当局など関係者の皆様のご努力とご尽力に感謝申し上げます。

酪農学園大学山岳部の創立は、1960年の四年制大学創立と同時に、大学のクラブの中では最も古いクラブと言えます。創立時はたった3名の部員から始まり、途中紆余曲折もありましたが、現在のように発展した部になるとは夢のようなことであり、この間多くの努力をされたOB、現役などの諸君のたえまい部活動への参画と努力があったことと思います。今後も、山登りを絆として、山岳部が発展し、部員やOBの人生に寄与できるクラブになることを願っています。(酪農学園大学山岳部現役・OB会事務局)